

目次

序	岩谷十郎	v
戦後日本の大衆社会論とマス・コミュニケーション論・再考	大石裕	一
アンソニー・ギデンズの社会理論における不安とリスク	澤井敦	二七
ジャーナリズムと社会的意味		
——「リアリティ」の社会学の視座から——	烏谷昌幸	四九
止まった時計	浜日出夫	七五
近世農民世帯の構成と戸主のライフコース		
——陸奥国安達郡南杉田村の人別改帳を用いて——	岡田あおい	九一

アートベース・リサーチ	
——なぞる／癒す／パフォーマンス——	……
岡原正幸	二一九
コールハース、ズーキン、そしてベンヤミン	
——都市批評の現在の困難を超えて——	……
近森高明	一四九
蔵内数太の生涯と教育社会学	……
竹村英樹	一七五
現代の地域社会、企業、個人の揺らぎ	……
石田幸生	二〇五
被災地ローカル各紙統合スクラップ帳の意義と課題	
——復興ロジックの探索・再構築に向けて——	……
大矢根 淳	三三九
ライフヒストリー研究法から家族研究への示唆	
——政治性の観点から——	……
藤間公太	二六一
過去の災害被災地に学ぶ	
——福岡県西方沖地震の玄界島と長野県北部地震の栄村小滝区の復興過程——	……
中野紀和	二八三

日本統治下台湾の「国語講習所」(一九三〇―四五)の講師に関する一考察 ——講師の履歴を中心に——	藤森智子	三〇七
熊本地震におけるデジタル・ネットワークワーキングの展開	干川剛史	三二一
日本における環境社会学の勃興と「制度化」 ——ひとつの試論——	堀川三郎	三七九
平和都市の形成と変容 ——被爆都市広島の復興過程とシンボルの役割——	松尾浩一郎	四〇七
ブルデューのパノフスキー受容と社会学的展開 ——美術史研究を反省的社会学に継承する「手法」——	三浦直子	四三三
日本の自分史実践における「第二の生産者」と自己反省的言説	小林多寿子	四九四
成育家庭の経済水準が子どもの地位におよぼす影響	鹿又伸夫	五二六

Between Liberation and Neglect: "Community-based" Approaches and Neoliberalism
in Policies for Asylum Seekers in Australia SHIOBARA, Yoshikazu... 五〇一

有末賢教授略歴・主要業績 四五五